

家庭教育力の強化を図る

学校・家庭・地域との連携を深めるPTA活動を目指して

津島市立神守中学校PTA

1 はじめに

津島市は、名古屋市の西方約16kmに位置し、1400年もの歴史を誇る津島神社の門前町として、近世・中世を通じて繁栄してきた。ユネスコ無形文化遺産でもある「尾張津島天王祭」や、国の重要文化財である「堀田家住宅」など多くの文化財や古い町並みが見られる。市内には自然も多く残されており、特に春の桜、初夏の藤・スイレン、秋の紅葉、冬の雪景色など、津島市の四季を象徴する天王川公園の季節の移り変わりは、とても美しく、市民の憩いの場になっている。

本校は、神守小学校、蛭間小学校、高台寺小学校の三つの校区からなる。生徒数463名、学級数15（うち特別支援学級2学級）は市内では最も規模が大きい学校である。校訓『至誠』を心の柱とし、地域とのつながりを大切にしている。



【運動場からみた校舎】



【体育館前にある校訓碑】

2 研究への取組

(1) PTA組織と活動内容

本校のPTA組織は会長・副会長（3名）・書記・会計・会計監査・学年委員長、副委員長と3つの専門委員会の委員長、副委員長からなる本部役員（16名）と学年理事（16名）の計32名で構成されている。

専門委員会には、コミュニケーション委員会、スクールメディア委員会、ハッピーライフ委員会がある。コミュニケーション委員会は、学校祭の作品展の会場管理や人権講演会への参加、スクールメディア委員会は、広報誌の発行、ハッピーライフ委員会は交通指導などを行っている。その他、あいさつ活動や花壇植え込み活動、学校行事における駐車場誘導係などを有志活動として行っている。

(2) 研究のねらい

コロナ禍を経て、PTA活動の精選・簡素化や運営体制の見直しを進めてきた。これまで各委員会で分担してきた活動の多くをPTA役

員だけでなく、全校の保護者にも呼びかけ、有志による活動にした。その結果、役員の負担感が大きく軽減され、各自の都合に応じた無理のないPTA活動への参加が可能となった。

本校は、津島市内でもいち早く、平成30年からコミュニティー・スクールとしての学校運営協議会を開始している。地域学校協働本部によるボランティア活動には以前から多くの生徒が参加しており、地域とのふれあいを通して卒業後も母校の支援をする精神が脈々と受け継がれている。家庭教育力は、さまざまな人たちとの関わりの中で育成されていくものである。これまでの取組を個別のものとして捉えず、学校・家庭・地域が一体となって連携し、協働すれば、より多くのPTA会員が教育活動に関わる機会を増やすことができ、みんなでPTA活動をつくり上げていく意識を高めることができる。持続可能なPTA活動を可能にし、生徒の健全育成につながるものだと考える。

3 実践活動の概要

(1) PTA発信による有志活動

① あいさつ活動

年間10回、朝の生徒の登校時に「あいさつ活動」を行っている。PTA役員だけでなく、教職員・生徒会・地域の方・津島少年補導委員など多くの方が参加している。本校はほとんどの生徒が正門前にある至誠橋を通過して登校する。あいさつの声かけをしながら、登校時の様子や人間関係を見ることが出来る。我が子が元気よく登校し、あいさつをする姿を直接見ると、保護者はやはり安心する。今後も継続的に取り組んでいきたい。



【あいさつ運動の様子】

② 花壇の植え込み活動

職員室前の玄関には色鮮やかな花が咲き誇っている。普段は、委員会活動の一環として、生活環境委員の生徒が交代で花に水やりをしている。6月には、ベゴニアやサルビア、マリーゴールドなど、10月には、チューリップやビオラなどの花の植え込み、花壇の整地をして、生徒が穏やかな気持ちで一日を過ごせるように、保護者と生徒が協働で花を育てる意識をもたせている。



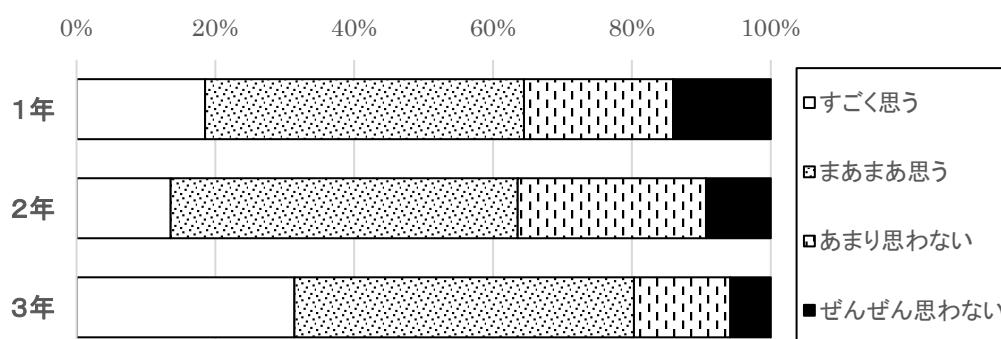
【植え込み作業の様子】

(2) 学校保健委員会

年に2回実施している。学校と家庭・地域の関係機関との連携により、生徒の健康問題を研究協議し、健康づくり活動を推進している。今年度は第1回目を7月に実施した。学校職員・PTA代表・外部機関（学校医）、生徒代表として保健安全委員の生徒3名が参加した。

まず、保健主事（養護教諭）から全体の学校保健計画と安全計画について説明をしたのち、定期健康診断の結果や健康生活に関する調査の結果をもとに、健康に関する課題を出し、意見を伝え合った。話し合いの中では、基本的な生活習慣のことだけではなく、「自分にはいいところがある」「自分のことが好きだと思う」等の自己肯定感についての考え方が生徒の視点から伝えられ、とても有意義な時間となった。

【「自分のことが好きだと思う」のアンケート結果】



(3) 地域と連携したボランティア活動

① 図書支援

毎日、昼の休み時間には、多くの生徒が図書室を訪れている。毎週火曜日と金曜日には地域の人に来ていただき、窓口で受付業務、書架整理、新着本の受け入れなど手伝っていただいている。また、入学時の1年生に向けて、図書室の利用についてのガイダンスをしていただいたり、人権の読み聞かせをしていただいたりしている。時には、生徒と会話をし、興味・関心がありそうな本の紹介もしてくれる。生徒の読書活動推進への一助となっている。



【図書ガイダンスの様子】

② 学習支援

9月頃から毎週月曜日の授業後、土曜日の午前に2時間ずつ地域の方と連携を取り、学習支援を行っている。月曜日は全学年の生徒が対象で土曜日は3年生のみを対象としている。この学習支援には学生ボランティアも毎回数名参加している。月曜日は全学年が対象のため、自学自習する中で、生徒同士でお互いの苦手な科目を教え合うことも

ある。土曜日は高校受験を控える生徒が対象となるため、学生ボランティアが苦手科目や分からないところを丁寧に指導する形をとっている。学生ボランティアのほとんどが、将来教職員を目指している者、または今年度採用試験に合格している者である。学習面だけでなく、自らの経験をもとに、よりよき高校生活を送るための助言をしてくれる。



【学習支援の様子】

③ 地域行事への参加

前述したように年間を通して多数の生徒がボランティア活動を希望し、参加している。その多くが地域行事への参加である。小学校の春祭り、町内会主催の防災訓練、小学校区コミュニティ主催の朝のラジオ体操、夏の幼稚園夏祭り、盆踊り、秋のこども園とのふれあい祭り等のイベントに参加している。これらの行事



【盆踊りでのボランティアの様子】

への参加を通して、さまざまな年代の人と交流し、社会人になるために必要なことや自己を見つめ、職業観を育てるよい機会にもなっている。また、自分たちが幼稚園、小学生だった頃に助けてもらった恩返し的一面もある。

4 おわりに

昨今はPTAの在り方についても叫ばれており、年々縮小する傾向にある。本校も「無理のない範囲で」「出来る限り」を合い言葉に、有志での活動と呼びかけてきた。今後は、教職員や生徒からアンケートをとり、どのような活動が生徒の教育効果を上げているか分析し、活動の精選と内容の充実を図っていく必要がある。そして、PTA活動の一つ一つが生徒の学校生活に潤いを与えていると感じられるよう、PTA活動の意義について情熱をもって伝えていく。それが、持続可能なPTA活動の根幹となると考える。

今回の研究を通して、地域社会とのつながりをもち、生き生きと活動している生徒の姿を見るたびに、学校・家庭・地域が共通理解をもち、生徒の健やかな成長を願って出来ることを考え、行動に移していくことが大切であると改めて感じた。今後も学校・家庭・地域の三者が協働して「みんなで作り上げていく」意識を高め、家庭教育力の向上に努めていきたい。